

カナダ カモーンソカレッジ

[2025年9月から12月]

現代政策学部2年 大野 俊介

こんにちは、現代政策学部2年の大野俊介です。

私は2025年9月から12月までの4か月間、カナダのビクトリアにある Camosun College に留学しました。

今回の留学の目的は、英語力の向上だけでなく、多文化社会の中で生活することで異なる価値観を直接体験することでした。さまざまな国や文化を持つ人々と関わることで、自分の視野を広げたいと考えていました。

ビクトリアは、カナダ西部ブリティッシュコロンビア州に位置する港町で、自然と歴史的な街並みが調和した落ち着いた都市です。比較的温暖な気候で、穏やかな雰囲気があり、「住みやすい街」としても知られています。この都市はかつてイギリスの植民地であった歴史を持ち、その影響は現在の街並みや文化にも色濃く残っています。建築様式には英国風の趣が感じられ、アフタヌーンティーの文化も根付いています。市内にはカフェが非常に多く、紅茶やコーヒーを楽しむことが日常の一部となっています。実際に街を歩くと、個人経営のカフェや歴史あるホテルのテールームが多く見られ、イギリス文化の名残を強く感じました。



私が履修しているのは English Language Development のコースです。授業は1日2コマで、1コマ100分、月曜日から木曜日までの週4日、計8コマあります。1時間目は Listening と Speaking、2時間目は Reading と Writing の授業です。四技能をバランスよく学ぶことができるカリキュラムで、基礎力と実践力の両方を養うことができました。少人数制の授業で、ディスカッションやプレゼンテーションの機会が多く、自分の意見を英語で伝える力を実践的に鍛えることができました。

授業では、カナダ社会に関連するテーマも扱われました。Orange Shirt Day や Thanksgiving、

Remembrance Day などを通して、言語の背景にある歴史や文化について学びました。英語を学ぶことは、その国の社会や価値観を理解することでもあったと感じました。

学期末試験に向けては Help Center を活用し、積極的に質問を重ねました。その結果、留学当初と比べて英語を話すことへの不安が減り、日常会話でも自然に意見を述べられるようになりました。

クラスには中東、アフリカ、中南米など、さまざまな地域出身の学生がいました。同じテーマについて議論しても、それぞれの文化や背景によって考え方が異なることに気づきました。この経験を通して、自分の考えが唯一の正解ではないことを学び、物事を多角的に見る姿勢が身についたと思います。

また、日本語ボランティアや Conversation Class にも参加しました。日本文化に強い関心を持つ人が多く、日本について説明する中で、自国理解も深まりました。

最終授業後にはクラスでパーティーが開催されました。12月ということもあり、会場はクリスマスの雰囲気に包まれており、日本とはまた異なる文化を感じることができました。クラスメイトや先生方とこれまでの学びを振り返りながら時間を過ごし、感謝の気持ちを伝えて別れを迎えました。この時間は、4か月の努力と成長を実感できる大切な瞬間でした。



さらに、同大学には国際課 (International Office) が設置されており、留学生へのサポート体制が非常に充実していました。到着後にはオリエンテーションが実施され、生活面や学習面に関する詳しい説明を受けることができたため、不安を軽減した状態で新しい生活を始めることができました。

国際課では、ハイキングやアイスホッケー観戦など、留学生向けのさまざまなイベントも企画されています。これらの活動は、他の留学生や地元の学生と交流を深める貴重な機会となっており、教室とは異なる環境の中で英語を実践的に使う場にもなりました。自然の中での活動やスポーツ観戦を通して共通の体験を共有することで、より円滑なコミュニケーションにつながったと感じています。

困ったことがあればいつでも相談できる体制も整っており、その存在は精神的な支えとなりました。異国で生活する中で、このようなサポートがあることは非常に心強く、安心して留学生活を送ることができました。



今回の留学ではホームステイを選択しました。ホストファミリーとは毎晩夕食をともにし、その日の出来事や学校で学んだこと、日本とカナダの文化の違いなどについて話す時間がありました。この何気ない日常の会話こそが、私にとって最も大きな学びの場でした。留学当初は、自分の言いたいことがすぐに英語で出でこず、会話の流れを止めてしまうこともありました。そのたびに悔しさを感じましたが、ホストファミリーは決して急かすことなく、私の言葉を最後まで待ち、必要であれば表現を教えてくださいました。その温かい姿勢に何度も救われました。少しずつ会話に慣れ、自分

から話題を振れるようになったとき、初めて「ここで生活している」と実感できたように思います。

また、食事の習慣や家族との接し方、休日の過ごし方など、日本とは異なる文化に触れる場面も多くありました。特にクリスマスには、家族や親戚が集まり、ゆったりと食事と会話を楽しむ時間を体験しました。日本とは形式や習慣は違っても、「家族との時間を大切にする」という価値観は共通していることに気づき、国を越えて共有できるものがあるのだと感じました。

さらに、私の誕生日にはお祝いをしていただきました。20歳という節目を迎え、日本では成人式があることを説明すると、カナダとの文化の違いについて会話が広がりました。このような何気ないやり取りを通して、文化とは生活の中に自然に存在しているものだと実感しました。

ホームステイは、単なる滞在方法ではなく、日常の中で異文化を体験できる貴重な機会でした。教室で学ぶ知識とは違い、人との関わりの中で得た経験は、今でも強く心に残っています。今回の留学において、ホームステイで過ごした時間は、私にとって特に大切な思い出であり、成長の原点となった時間でした。



留学を考えている方には、ぜひ挑戦してみしてほしいと思います。実際に海外で生活すると、英語力の向上だけでなく、文化や価値観の違いなど、多くの学びを得ることができます。特にホームステイでは、現地の人々の生活を身近に感じながら、ともに行事や日常を共有することで、教室では得ることのできない貴重な経験ができます。シェアハウスも一つの選択肢ですが、ホームステイはホストファミリーとの関わりを通してより深い交流が生まれ、生活面でも安心して過ごせると感じました。

初めの一步を踏み出すには勇気が必要ですが、その一步が確実に大きな成長へとつながります。4か月間の留学生活は決して長いものではありませんでしたが、語学力の向上に加え、自分自身の考え方にも大きな変化がありました。異なる文化の中で生活することで視野が広がり、物事を柔軟に捉える姿勢を身につけることができた実感しています。

この経験を今後の学修や将来に活かしていきたいと考えています。そして、この貴重な機会を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。